

子どものマナーと作法

—小中学生への質問紙調査の結果から—

西本佳代ⁱ・村上光朗ⁱⁱ・古賀正義ⁱⁱⁱ
越智康詞^{iv}・松田恵示^v・加野芳正^{vi}

I. はじめに —マナーの社会学的研究に向けて—

私たちの日常生活を秩序づけるものとして「マナー」や「礼儀作法」の領域がある。マナーは「ヒトが自己あるいは他者のもつ動物性の次元になるべく直面しないで済むように作り上げた一種の身体技法」(見田宗介他編 1988、823頁)である。それは多くの場合、教育やしつけを通して身体化される。マナーの精神の根底にあるのは他者に対する配慮であり、自分勝手な行動を抑制し、快適な市民社会を維持することである。また、マナーは、法と道德の中間に位置づく準ルールであるとも言われる(矢野 2008、239頁)。ところで、社会規範としての「法」や「ルール」、また、「道德」や「倫理」については多くの研究が蓄積されている。それに対して、法と道德の中間に位置し、「準ルール」と言われるマナーは十分な研究が行われていないだけでなく、それに対応する学問領域も存在していない。その一方で、「食事のマナー」「ビジネスマナー」「冠婚葬祭のマナー」などマナー書はたくさん刊行されている。このマナー書は「～するべし」「～するべからず」のレトリックで書かれていることから考えると、マナー書は教育書の前身でもある(矢野 2008、239-240頁)。イギリスでは「マナー・メクス・キャラクター」(マナーが人間をつくる)とも言われ、人間はマナーを身につけてこそ、教養ある人、品格ある人とみなされる。そう考えると、マナー問題は教育研究者が取り組むべき重要な課題として位置づいてくる。このマナーを教育社会学の視点から考察すると、おおよそ以下の5点を課題として設定できるのではないか。

第1に、マナーに反する振る舞いは人々を不愉快な気分させるが、犯罪のように社会秩序に重要な脅威をもたらすものでもなければ、道德に反する行為のように人間性の本質に及ぶテーマでもない。したがって、マナーの問題は私たちにとって表面的に位置づけられがちである。しかし、マナーは「他者への気づかい」といった表面的な問題ではなく、人間存在の根幹に深く根ざしており、品位や品格とも結びついている。マナーは私たちにとってどのような意味を持っているのか、人間(形成)にとってマナーとは何であるのか、この問いに答えることである。いわば原理的な問いであり、デュルケームの儀礼論や人格崇拜論、ジンメル⁷の社交論、ゴッフマンの演技論や相互作用論

i 西本佳代(山口福祉文化大学)

ii 村上光朗(鹿児島国際大学)

iii 古賀正義(中央大学)

iv 越智康詞(信州大学)

v 松田恵示(東京学芸大学)

vi 加野芳正(香川大学)

などが基礎理論を提供してくれる。

第2に、マナーや礼儀作法が歴史のなかでどのように現れ、変質していったのかという問いである。歴史的視点からみると、そもそもマナーに普遍的な姿は存在せず、それぞれの文化のなかで、歴史的に生成されて今日の姿となった。N・エリアスの著作によれば、ヨーロッパ中世の騎士たちは、人前で平気で排泄をするような人たちであった。ところが、中央集権的な絶対王政が成立し、国王を中心とした宮廷社会が始まると、地方にあった封建領主や騎士たちは貴族となって宮廷に移り住み、そこで洗練された身体技法(マナー)が成立した。集団で生活し、秩序を生み出すためには、自己の衝動を抑制しなければならなくなったからであり、この身体技法はブルジョア階級にも浸透していった。エリアスは、他者に配慮するために自己の身体を抑制することがマナーであり、文明化であり、近代的自我の起源であると考えた。他方、日本では(礼儀)作法が発達した。日本の代表的礼法である小笠原流は、室町時代につくられた公家の有職故実の系譜をひく礼法であり、武家の礼法である。それが江戸時代になって庶民に取り入れられるようになると、お辞儀やふすまの開け方など、小笠原流型の作法が支配的になっていったという(武光2008、158頁)。明治時代になると、社会が大きく変化したことに加えて、西欧のマナーがもたらされたため、それまでの日本人の型が崩れ、これを立て直すために政府が始めたのが国民礼法である。明治末から大正初期にかけて「小学校作法教授要項」「中学校作法教授要項」などの作法教授要項が示され、学校教育を通して「日本人の作法」が形成されていった。

第3に、マナーのもっている社会的機能について考察することである。このことは「マナーとは何か」という問いとも重なる。ヨーロッパにおけるマナーの成立過程について述べたように、マナーの獲得は社会的階層と関連している。マナーを身につけているのは支配階層であり、被支配階層は十分なマナーを身につけていない。そのためマナーは、階層的、身分的なものになり、人柄と品性を映す鏡となる。例えば、P.ブルデューのハビトゥス概念はそのような側面を持っている。マナーは家庭や学校教育を通して獲得されるが、マナーをもつ者ともたざる者とは分かれ、階級を再生産していく要因の一つに位置づけられている。エリアスは、マナーが誕生し洗練されていくプロセスを文明化と考えているので、マナーを身につけている人は文明人であり、身につけていない人は野蛮人ということになる。野蛮人は軽蔑されるが、それは植民地主義にも通じる。だから日本でも、明治期には外国から野蛮人と思われぬように西欧のマナーを取り入れる必要があり、明治30年頃にかけて「西欧の未知の風俗」を輸入・紹介するという目的で礼儀作法書が多数翻訳された(竹内2002、128頁)。他方で、マナーは人と人とを繋ぐ機能を有している。人が社会をつくっていくためにはマナーやルールを守らなくてはならない。マナーやルールを守ることによって、私たちは快適な日常生活を送ることができる。マナーといえば「あいさつ」を思い浮かべる人も多いだろう。人間どうしの結びつきを考えれば、あいさつは不可欠の行為であり、それだけに普遍的行為でもある。このように共通の身体技法(マナー)を有することによって社会は成り立っている。マナーは人と人とを結びつける機能と切断する機能を有している。

第4に、われわれの社会でマナーはどのような状態にあり、人々はそれをどのように守っているのかという問いであり、また、マナーを社会全体としてどのように育てていくのかといった実践的課題である。マナーは、自由な主体の活動を通じて構成される公共空間において、他者や共通世界への関心・配慮・参加の成果として、協同して作り上げられる作品である。子どもにマナーを伝えることは、ヒトとヒトとの「あいだ・つながり」としての共通世界を関知させるものであり、また、マナーを守り実践する行為は、公共世界に参加しているという実感や喜びを伴う。他方で、マナーは、道徳としての義務でもなければ、法律による強制でもない、いわば「自由」が担保されている領域である。それ故、マナーを欠く行為が目につきやすく、それが人々を不快にさせる。したがっ

て、人々はマナーにどのような意識を持っているのか、学校をはじめとした空間においてマナーをどのように育てていくかが、実践的研究課題として検討されなければならない。

第5に、マナーが人びとにどのように共有されていくのか、そのプロセスを明らかにしていくことである。マナーは家庭でのしつけや学校教育を通して身体化されるが、社会教育や企業内教育にとっても重要な課題となっている。人間形成という視点で考えると、マナーは共通世界・公共世界の広がりに関連して育っていくので、マナーの育つことが、大人の世界へとつながっていく。この視点から、マナーを教育とつなげて考えていくことが必要である。マナーは家庭でのしつけによって身につくことが多い。日本では従来、子どもをたしなめるのに「そんなことをすると、ひとさまに笑われますよ」というのがきまり文句であり(我妻・原 1974、162頁)、世間体や羞恥心に訴えることでマナーを身につけさせてきた。現代社会では、家庭でのしつけがなおざりになったという言説は根強い。しつけの中身も含めて、保護者はどのような価値を子どもに伝えようとしているのか、そのなかでマナーはどのように位置づいているのか。学校教育も子どもたちにマナーを伝える主要なエージェントである。高校のホームページを開いてみると、マナー教育の推進を実践している学校が少なくない。とりわけ女子校には、「マナー」=「品格」の視点から、マナー教育を重視する学校も多い。近年の特徴として、大学におけるマナー教育を初年次教育やキャリア教育と絡めながら実践している大学もある。

以上、マナーや礼儀作法と私たち日本人はどのように向き合い、変質させてきたのか、今日みられるマナーの形骸化はどのような問題を惹起しているのか、そして、公共的な世界に参加するとともに品格と教養のある子ども・若者を形成していくにはマナーとどのように向き合えばよいのか。マナーの範囲は広く、近年注目されているシティズンシップ教育なども、マナーの問題と無関係ではない。本研究は、マナー・礼儀作法の問題を正面に据えて、①マナーの本質は何か、②マナーは歴史的にどのように成立したのか、③マナーの社会的機能は何か、④マナーはどのように守られているか、⑤マナーはどのように教育されているか、これら5つの視点から読み解こうとする試みであり、本稿は、③、④、⑤の課題意識に対応した質問紙調査の結果にもとづいて報告するものである。

II. 分析データ

2012年6～7月にかけて、小中学生とその保護者を対象に、マナーに関する質問紙調査を行った¹⁾。調査対象としたのは香川、東京、長野、鹿児島、兵庫の5都県である。小学生対象の調査では、20校、1,867名、中学生対象の調査では、15校、1,726名の回答が得られた。また、これらの学校に子どもを通わせる保護者に対しても調査を実施し、2,293名(小学生の保護者1,108名、中学生

表1 分析対象者の所属校

A 小学校	B 小学校	C 小学校	D 小学校	E 小学校	F 小学校	G 小学校	H 小学校	I 小学校	J 小学校	K 小学校	L 小学校	M 小学校	N 小学校	O 小学校	P 小学校	Q 小学校	R 小学校	S 小学校	T 小学校	合計
5.7	4.2	2.5	1.7	2.6	3.6	3.8	6.5	19.7	3.5	2.5	5.1	4.3	2.5	3.6	5.4	9.2	6.1	3.7	3.9	100.0 (1867)
					A 中学校	B 中学校	C 中学校	D 中学校	E 中学校	F 中学校	G 中学校	H 中学校	I 中学校	J 中学校	K 中学校	L 中学校	M 中学校	N 中学校	O 中学校	合計
					9.3	9.2	7.1	3.1	11.6	15.6	13.8	6.7	2.4	0.9	1.1	5.2	6.7	1.7	5.5	100.0 (1726)

注：表中の数値は%、括弧内の数値は有効回答者数を示す。以下同様に表記。

表2 分析対象者の属性

性別	男	女	合計	性別	男	女	合計	
	50.1	49.9	100.0 (1867)		50.2	49.8	100.0 (1720)	
学年	小学校5年生	小学校6年生	合計	学年	中学校1年生	中学校2年生	中学校3年生	合計
	82.4	17.6	100.0 (1860)		5.7	92.5	1.8	100.0 (1723)

の保護者1,185名)の回答を得ることができた。本稿では、調査結果の中でも特に小中学生調査に焦点を絞り報告する。

Ⅲ. 分析結果

1. マナーについての見方・考え方

まず、小中学生がマナーについてどのような見方や考えをしているのかを確認することからはじめたい。表3は、小中学生にマナーについての見方や考えを聞き、得られた回答を示したものである。この結果からは、小中学生の多くは、マナーを守るべきだという価値観を身につけ、マナーを守るべき理由を理解し、実際にマナーを守っていることがわかる。小中学生データの合計値をみると、「マナーを守ることは大切だ」の項目に「とてもあてはまる」とした割合は73.9%、「まあまああてはまる」とした割合は21.2%となっており、両者をあわせると95.1%にものぼる。また、「マナーを守ると気持ちがいい」の項目に「とてもあてはまる」「まあまああてはまる」と回答した者は88.1%、「マナーを守る人はカッコいい」80.8%、「マナーを知らないことは恥ずかしい」80.0%となっており、小中学生の多くは、マナーを守るべきだという価値観を身につけていることがわかる。

さらに彼らは、マナーを守るべき理由についても理解しているようだ。「マナーを守らないと周りの人を嫌な気持ちにさせる」、「みんながマナーを守らないと社会がぐちゃぐちゃになる」の項目について、「とてもあてはまる」あるいは「まあまああてはまる」と回答した者は、それぞれ88.7%、84.4%である。また、「わたしはマナーを身につけている」についても、「とてもあてはまる」16.2%、「まあまああてはまる」59.4%となっており、約8割の小中学生が該当すると回答している。これらの結果から、小中学生の多くは、マナーを守るべきだという価値観を身につけ、マナーを守るべき理由を理解し、また、実際にもマナーを守っているといえるだろう。

ところで、これら表の各項目について小学生と中学生のデータを比較すると、中学生よりも小学生の方がマナーに対しての意識が高いことがわかる。まず、中学生よりも小学生は、自分はマナーを身につけていると考える傾向にある。「わたしはマナーを身につけている」に「とてもあてはまる」と回答した割合は、小学生20.0%、中学生12.1%となっている。また、中学生よりも小学生の方が、マナーを守ることに価値を見いだしているようにも思える。「マナーを守ると気持ちがいい」に「とてもあてはまる」と回答した割合は、小学生70.7%、中学生52.7%となっている。さらに、「マナーを守ることは大切だ」については、小学生81.0%、中学生66.0%という割合を示している。

このようにマナーを守ることに価値を見いだしているためだろうか、小学生は中学生に比べ、マナー違反に対して厳しい見方をしている。「マナーを守らない人には、もっと注意すべきだ」の項目に「とてもあてはまる」と回答した割合は、中学生43.2%に対し、小学生は58.6%である。その一方で小学生は、マナーについてうるさく言われることに対して抵抗もあるようだ。「マナーのことをやかましくいう社会はきゅうくつだ」の項目については、「とてもあてはまる」と回答した割合は、中学生17.1%に対して小学生は30.3%であった。

マナーに対する意識に関して、小学生と中学生との間の最も大きな違いは「大人はマナーを守っ

表3 マナーについての考え

		まったくあてはまらない	あまりあてはまらない	まあまああてはまる	とてもあてはまる	合計	
わたしはマナーを身につけている	小学校	4.7	17.8	57.5	20.0	100.0 (1842)	***
	中学校	4.3	22.2	61.5	12.1	100.0 (1689)	
	合計	4.5	19.9	59.4	16.2	100.0 (3531)	
マナーを守る人はかっこいい	小学校	7.5	13.4	27.3	51.8	100.0 (1856)	***
	中学校	4.5	12.8	37.0	45.7	100.0 (1693)	
	合計	6.1	13.1	31.9	48.9	100.0 (3549)	
マナーを守ると気持ちがいい	小学校	3.0	7.1	19.2	70.7	100.0 (1856)	***
	中学校	3.5	10.4	33.4	52.7	100.0 (1691)	
	合計	3.2	8.7	26.0	62.1	100.0 (3547)	
マナーを守ることは大切だ	小学校	1.5	2.9	14.6	81.0	100.0 (1846)	***
	中学校	2.2	3.2	28.5	66.0	100.0 (1693)	
	合計	1.9	3.1	21.2	73.9	100.0 (3539)	
マナーを知らないことは恥ずかしい	小学校	8.6	14.3	28.5	48.6	100.0 (1847)	***
	中学校	4.4	12.3	35.9	47.3	100.0 (1690)	
	合計	6.6	13.3	32.1	48.0	100.0 (3537)	
大人はマナーを守っている	小学校	7.9	21.2	38.0	32.9	100.0 (1851)	***
	中学校	14.5	39.7	34.7	11.0	100.0 (1686)	
	合計	11.1	30.1	36.4	22.5	100.0 (3537)	
マナーを守らない人には、もっと注意するべきだ	小学校	3.7	10.6	27.1	58.6	100.0 (1849)	***
	中学校	4.2	14.1	38.4	43.2	100.0 (1691)	
	合計	4.0	12.3	32.5	51.2	100.0 (3540)	
マナーのことをやかましくいう社会はきゅうくつだ	小学校	18.2	22.5	29.0	30.3	100.0 (1840)	***
	中学校	14.2	39.5	29.2	17.1	100.0 (1693)	
	合計	16.2	30.7	29.1	24.0	100.0 (3533)	
マナーを守らないと周りの人を嫌な気持ちにさせる	小学校	4.7	7.9	22.6	64.8	100.0 (1846)	***
	中学校	2.6	7.3	37.2	52.9	100.0 (1689)	
	合計	3.7	7.6	29.6	59.1	100.0 (3535)	
みんながマナーを守らないと社会がぐちゃぐちゃになる	小学校	5.2	10.6	26.2	58.0	100.0 (1848)	***
	中学校	4.1	11.1	34.2	50.5	100.0 (1688)	
	合計	4.7	10.9	30.0	54.4	100.0 (3535)	

注) ***p<0.001、**p<0.01、*p<0.05以下同様に表記。

ている」の項目にあらわれている。この項目に「とてもあてはまる」を選択した者は、小学生32.9%、中学生11.0%となっている。「まあまああてはまる」を選択した者をあわせると、小学生の70.9%が該当しているのに対し、中学生は45.7%であり、25%もの差が生じている。小学生よりも中学生の方が、大人のマナーに対してより厳しい見方をしているといえるだろう。

では、マナーを守っていないようにみえるのはどの世代なのだろうか。続く表4は、「子ども」、「若者」、「大人」、「お年寄り」の四つの選択肢の中で最もマナーが悪いのはどの世代かをたずねた結果を示したものである。この結果からは、若者のマナーが悪いと感じている小中学生が多いことがわかる。小中学生をあわせた合計の値をみると、「若者」70.9%、「子ども」10.4%、「大人」10.1%、「お年寄り」2.5%となっており、群を抜いて若者を選択する小中学生が多いことが確認できる。しかし、その割合は小学生と中学生とで差が生じている。「若者」を選択した者は、小学生76.6%、中学生64.5%となっており、年齢が「若者」に近づくほど、「若者」を選択しなくなっている

ことがわかる。

2. 小中学生のマナー

2-1. なりたい人物像

表4からは、小学生と中学生で差があるものの全体としてみると、小中学生の多くは、マナーを守るべきだという価値観を身につけ、マナーを守るべき理由を理解し、実際にマナーを守っていると考えていることがわかった。では、小中学生はどんな人になりたいと思っているのか、また、どんなマナー行動を心がけているのだろうか、この点を見ていきたい。

表4 マナーが最も悪い人

	子ども	若者	大人	お年寄り	複数回答	合計	
小学校	10.7	76.6	5.6	1.7	5.4	100.0 (1830)	***
中学校	10.2	64.5	15.2	3.4	6.6	100.0 (1630)	
合計	10.4	70.9	10.1	2.5	6.0	100.0 (3460)	

表5 なりたい人物像

		まったくあてはまらない	あまりあてはまらない	まあまああてはまる	とてもあてはまる	合計	
心のやさしい人になりたい	小学校	1.6	6.3	32.7	59.4	100.0 (1859)	***
	中学校	2.5	3.6	33.9	60.1	100.0 (1716)	
	合計	2.0	5.0	33.2	59.7	100.0 (3575)	
礼儀正しい人になりたい	小学校	1.7	7.3	31.3	59.7	100.0 (1851)	***
	中学校	2.0	3.6	34.1	60.3	100.0 (1716)	
	合計	1.9	5.5	32.6	60.0	100.0 (3567)	
根気強い人になりたい	小学校	2.7	10.6	35.8	50.9	100.0 (1845)	***
	中学校	2.5	6.7	32.2	58.6	100.0 (1713)	
	合計	2.6	8.7	34.1	54.6	100.0 (3558)	
他人の意見を聞ける人になりたい	小学校	1.8	9.8	37.1	51.2	100.0 (1850)	***
	中学校	2.6	6.3	40.0	51.1	100.0 (1711)	
	合計	2.2	8.1	38.5	51.2	100.0 (3561)	
自分の意見をハッキリ言える人になりたい	小学校	2.6	7.3	26.3	63.7	100.0 (1853)	***
	中学校	2.4	8.2	32.3	57.0	100.0 (1713)	
	合計	2.5	7.8	29.2	60.5	100.0 (3566)	
正直な人になりたい	小学校	1.0	5.5	25.9	67.6	100.0 (1851)	***
	中学校	2.4	6.8	33.2	57.5	100.0 (1712)	
	合計	1.7	6.1	29.4	62.8	100.0 (3563)	
勉強ができる人になりたい	小学校	3.2	7.0	22.6	67.2	100.0 (1850)	
	中学校	2.7	4.9	23.5	68.8	100.0 (1712)	
	合計	3.0	6.0	23.0	68.0	100.0 (3562)	
社会のルールを守る人になりたい	小学校	1.0	5.2	25.0	68.8	100.0 (1848)	***
	中学校	1.8	3.4	31.5	63.4	100.0 (1706)	
	合計	1.4	4.3	28.1	66.2	100.0 (3554)	
上品な人になりたい	小学校	8.5	19.5	38.1	33.9	100.0 (1841)	**
	中学校	5.5	20.2	39.9	34.5	100.0 (1706)	
	合計	7.0	19.8	38.9	34.2	100.0 (3547)	

表5は、いくつかのなりたい人物像を提示し、それをもとに「あなたはこれからどんな人になりたいですか」を尋ねた結果である。この表からはほとんどの項目において、「あてはまる」（「とてもあてはまる」+「まあまああてはまる」）と回答した者が大多数を占めていることがわかる。「心のやさしい人になりたい」、「礼儀正しい人になりたい」、「根気強い人になりたい」、「他人の意見を聞ける人になりたい」、「自分の意見をハッキリ言える人になりたい」、「正直な人になりたい」、「勉強ができる人になりたい」、「社会のルールを守る人になりたい」の各項目について、「あてはまる」（「とてもあてはまる」+「まあまああてはまる」）を選択した小中学生の割合は80%の後半から90%の前半を示している。

その中でも「あてはまる」を選択した小中学生が多かったのは、「社会のルールを守る人になりたい」の94.3%であり、続いて「心のやさしい人になりたい」93.0%、「礼儀正しい人になりたい」92.6%であった。わずかな差ではあるが、マナーに類する礼儀よりも、ルールを守る人になりたいと回答した小中学生の多いことが確認できる。

なお、マナーに近接する項目をみると、「礼儀正しい人になりたい」に比べて、「上品な人になりたい」と回答した小中学生は比較的少なかった。「上品な人になりたい」について、「とてもあてはまる」と回答した小中学生は34.2%であり、他の項目と比べると選択した者の割合が少なかった。小中学生にとって「品」は身近なものではないと思われるようだ。

2-2. 日常生活におけるマナー意識・行動

なりたい人物像の検討からは、「礼儀正しい人になりたい」と回答した小中学生が9割以上であることがわかった。では、彼らは日常生活の具体的な場面においてどのようなマナー意識を持ち、行動しているのだろうか。以下では、日常生活におけるマナー、学校でのマナー、友だちに対するマナー、食事の際のマナーに着目し検討していきたい。

表6は、日常生活におけるマナー意識・行動を問い、得られた回答を示したものである。まず、上半分の「マナー意識」をみると、お礼の「ありがとう」を言わないこと、レジに並ばないこと、ポイ捨てをしないことを「ぜったいにいけない」行為だと考える小中学生の多いことがわかる。小中学生の合計値をみると、「ぜったいにいけない」の該当者の割合は、多い順に「買い物をするときにレジに並ばない」92.1%、「親切なことをされても〈ありがとう〉を言わない」87.5%、「ジュースなどのカン・ビンをポイすてする」85.7%と続いている。

表6の各項目を小学生と中学生とで比較すると、中学生よりも小学生の方が、日常生活においてマナーを守るべきだと考えていることがわかる。「年上の人に敬語を使わないで話す」、「近所の人にあってもあいさつをしない」、「人にぶつかっても〈すみません〉を言わない」、「親切なことをされても〈ありがとう〉を言わない」、「ところかまわず地面に座る」、「道路につばをはく」、「買い物をするときにレジに並ばない」、「ファミリーレストランやフードコートで大声をだす」、「自転車に乗る時、道路の左側を通らない」、「ジュースなどのカン・ビンをポイすてする」、「トイレの後に手を洗わない」の各項目において、「ぜったいにいけない」と回答した者の割合は、中学生より小学生の方が多。特に、「近所の人にあってもあいさつをしない」、「自転車に乗る時、道路の左側を通らない」の2つの項目では差が大きく、小学生と中学生との間で20%近くの開きがあった。

一方、表6の下半分（マナー行動）をみると、「すみません」や「ありがとう」といった謝罪の言葉やお礼の言葉が、よく使えていると考える小中学生の多いことがわかる。小中学生の合計値をみると、「あてはまる」（「とてもあてはまる」+「まあまああてはまる」）と回答した割合は、それぞれ「親切なことをされたら〈ありがとう〉を言う」97.2%、「人にぶつかったら〈すみません〉を言う」96.0%となっていた。表6全体を通して小学生と中学生のデータを比較すると、意識面よりも行動

面で、小学生と中学生の差が小さいことがわかる。「あてはまる」(「とてもあてはまる」+「まあまああてはまる」)と回答した者の割合を見ると、行動面では意識面で見られたような大きな差は見られず、どの項目においても10%以下でしかなかった。

2-3. 学校でのマナー意識・行動

表6では日常生活におけるマナー意識とマナー行動をみたが、学校生活においてはどうか。表7は、小学生と中学生に学校でのマナー意識・行動について尋ねた結果である。

まず、表7の上半分(マナー意識)について確認すると、卒業式で身だしなみを整えないことを「ぜったいにいけない」行為だと考える小中学生の多いことがわかる。小学生と中学生のデータの合計をみると、「ぜったいにいけない」と回答した者の割合は82.8%に達している。学校生活の場面でのマナー意識を、小学生と中学生とで比較すると、中学生よりも小学生の方が、学校でのマナーを守るべきだと考えていることがわかる。「学校に遅刻する」、「授業中におしゃべりをする」、「忘れ物をする」、「授業中に居眠りをする」、「先生とすれちがってもあいさつをしない」、「卒業式で身だしなみを整えない」のいずれの項目についても、「ぜったいにいけない」と回答した者の割合は、中学生より小学生の方が多くなっている。なかでも小学生と中学生の差が大きいのは「授業中に居眠りをする」の項目であり、小学生の85.3%に対して中学生は49.0%に過ぎなかった。同様に「授業中におしゃべりをする」、「先生とすれちがってもあいさつをしない」などの項目においても小学生と中学生の差が大きく、この二つの項目では20%程度の差が見られた。

一方、表7の下半分(マナー行動)をみると、「卒業式では身だしなみを整える」について8割近

表6 日常生活におけるマナー意識・行動

		べつによい	たまに ならよい	しかたない ときもある	ぜったいに いけない	合計	
年上の人に敬語を使わないで話す	小学校	6.1	12.3	41.2	40.5	100.0 (1860)	**
	中学校	4.6	12.0	47.8	35.6	100.0 (1721)	
	合計	5.4	12.1	44.3	38.1	100.0 (3581)	
近所の人にあってもあいさつをしない	小学校	2.1	5.0	30.1	62.8	100.0 (1861)	***
	中学校	4.0	7.3	44.4	44.3	100.0 (1715)	
	合計	3.0	6.1	36.9	53.9	100.0 (3576)	
人にぶつかっても「すみません」を言わない	小学校	1.0	1.8	11.5	85.6	100.0 (1860)	***
	中学校	1.7	2.0	18.2	78.1	100.0 (1714)	
	合計	1.3	1.9	14.7	82.0	100.0 (3574)	
親切なことをされても「ありがとう」を言わない	小学校	0.8	1.4	7.9	90.0	100.0 (1855)	***
	中学校	1.0	1.3	12.8	84.9	100.0 (1717)	
	合計	0.9	1.3	10.2	87.5	100.0 (3572)	
ところかまわず地面に座る	小学校	9.1	9.3	38.6	43.0	100.0 (1845)	***
	中学校	9.2	11.9	47.5	31.4	100.0 (1715)	
	合計	9.1	10.6	42.9	37.4	100.0 (3560)	
道路につばをはく	小学校	1.9	2.9	10.4	84.8	100.0 (1855)	***
	中学校	3.2	4.7	17.5	74.6	100.0 (1712)	
	合計	2.5	3.8	13.8	79.9	100.0 (3567)	
買い物をするときにレジに並ばない	小学校	0.9	0.8	3.7	94.6	100.0 (1858)	***
	中学校	1.3	1.8	7.4	89.4	100.0 (1710)	
	合計	1.1	1.3	5.5	92.1	100.0 (3568)	

子どものマナーと作法

ファミリーレストランやフードコートで大声をだす	小学校	1.0	1.7	12.7	84.6	100.0 (1853)	***
	中学校	2.1	2.9	23.9	71.2	100.0 (1706)	
	合計	1.5	2.2	18.1	78.2	100.0 (3559)	
自転車に乗る時、道路の左側を通らない	小学校	4.8	6.5	44.4	44.2	100.0 (1854)	***
	中学校	8.0	11.0	54.7	26.3	100.0 (1706)	
	合計	6.3	8.7	49.4	35.6	100.0 (3560)	
ジュースなどのカン・ビンをボイすてする	小学校	0.9	2.1	7.1	90.0	100.0 (1853)	***
	中学校	1.8	3.1	14.1	80.9	100.0 (1711)	
	合計	1.3	2.6	10.5	85.7	100.0 (3564)	
トイレの後に手を洗わない	小学校	2.8	3.6	20.3	73.3	100.0 (1856)	
	中学校	3.0	3.3	22.9	70.9	100.0 (1710)	
	合計	2.9	3.4	21.5	72.2	100.0 (3566)	
		まったくあてはまらない	あまりあてはまらない	まあまああてはまる	とてもあてはまる	合計	
年上の人には敬語を使って話すようにしている	小学校	4.9	10.3	45.7	39.2	100.0 (1855)	***
	中学校	1.7	6.7	39.8	51.8	100.0 (1717)	
	合計	3.4	8.6	42.8	45.2	100.0 (3572)	
近所の人にあつたらあいさつをするようにしている	小学校	3.0	5.4	24.3	67.3	100.0 (1857)	***
	中学校	2.8	9.1	34.3	53.8	100.0 (1716)	
	合計	2.9	7.2	29.1	60.8	100.0 (3573)	
人にぶつかったら「すみません」を言う	小学校	1.5	2.5	15.3	80.7	100.0 (1859)	**
	中学校	1.7	2.4	19.4	76.5	100.0 (1718)	
	合計	1.6	2.5	17.3	78.7	100.0 (3577)	
親切なことをされたら「ありがとう」を言う	小学校	1.1	1.6	10.8	86.5	100.0 (1857)	***
	中学校	0.9	2.0	17.1	79.9	100.0 (1717)	
	合計	1.0	1.8	13.9	83.3	100.0 (3574)	
ところかまわず地面に座る	小学校	47.4	25.3	17.6	9.7	100.0 (1849)	***
	中学校	40.2	33.6	18.2	8.1	100.0 (1713)	
	合計	43.9	29.3	17.9	8.9	100.0 (3562)	
道路につばをはく	小学校	81.3	9.7	4.1	4.9	100.0 (1851)	*
	中学校	76.9	12.1	5.5	5.5	100.0 (1715)	
	合計	79.2	10.9	4.7	5.2	100.0 (3566)	
買い物をするときはレジに並ぶ	小学校	7.6	0.5	2.5	89.4	100.0 (1841)	***
	中学校	5.7	0.9	5.9	87.6	100.0 (1709)	
	合計	6.7	0.7	4.1	88.5	100.0 (3550)	
ファミリーレストランやフードコートで大声をだす	小学校	77.9	11.4	5.0	5.7	100.0 (1835)	***
	中学校	67.3	20.6	7.0	5.1	100.0 (1711)	
	合計	72.8	15.8	5.9	5.4	100.0 (3546)	
自転車に乗る時は道路の左側を通る	小学校	13.2	17.6	31.1	38.0	100.0 (1838)	***
	中学校	11.4	25.8	41.0	21.8	100.0 (1705)	
	合計	12.3	21.6	35.9	30.2	100.0 (3543)	
ジュースなどのカン・ビンをボイすてする	小学校	80.5	9.5	3.8	6.2	100.0 (1844)	***
	中学校	71.1	15.7	7.0	6.3	100.0 (1710)	
	合計	76.0	12.5	5.3	6.2	100.0 (3554)	
トイレの後に手を洗わない	小学校	64.7	17.4	7.9	10.0	100.0 (1857)	***
	中学校	75.3	12.3	5.2	7.2	100.0 (1713)	
	合計	69.8	14.9	6.6	8.7	100.0 (3570)	

くの小中学生は「とてもあてはまる」と回答している。しかし、これは一日だけのことである。それ以外の項目を見ると、「あてはまる」（「とてもあてはまる」+「まあまああてはまる」）と回答した割合は、学校に遅刻する（13.3%）、授業中におしゃべりする（60.4%）、忘れ物をする（52.2%）、授業中に居眠りする（18.5%）などであった。授業中のおしゃべり、忘れ物など、全体として「している」小中学生の割合が高いという印象を持った。「先生とすれちがったらあいさつをする」について

表7 学校でのマナー意識・行動

		べつによい	たまにならよい	しかたないときもある	ぜったいにいけない	合計	
学校に遅刻する	小学校	2.1	4.3	52.2	41.3	100.0 (1865)	***
	中学校	5.3	4.4	57.1	33.2	100.0 (1719)	
	合計	3.7	4.4	54.5	37.4	100.0 (3584)	
授業中におしゃべりする	小学校	4.0	8.3	41.5	46.3	100.0 (1861)	***
	中学校	6.0	12.7	52.5	28.8	100.0 (1721)	
	合計	5.0	10.4	46.8	37.9	100.0 (3582)	
忘れ物をする	小学校	2.0	10.4	49.8	37.8	100.0 (1862)	***
	中学校	5.4	9.6	55.8	29.2	100.0 (1718)	
	合計	3.7	10.0	52.7	33.6	100.0 (3580)	
授業中に居眠りする	小学校	1.4	2.2	11.1	85.3	100.0 (1864)	***
	中学校	6.6	6.7	37.7	49.0	100.0 (1718)	
	合計	3.9	4.4	23.8	67.9	100.0 (3582)	
先生とすれちがってもあいさつをしない	小学校	2.8	3.7	24.1	69.4	100.0 (1864)	***
	中学校	5.2	7.3	41.1	46.4	100.0 (1717)	
	合計	4.0	5.4	32.3	58.3	100.0 (3581)	
卒業式で身だしなみを整えない	小学校	1.9	1.6	13.0	83.5	100.0 (1853)	
	中学校	2.8	1.7	13.4	82.0	100.0 (1715)	
	合計	2.4	1.7	13.2	82.8	100.0 (3566)	
		まったくあてはまらない	あまりあてはまらない	まあまああてはまる	とてもあてはまる	合計	
学校に遅刻することがある	小学校	70.8	17.0	7.8	4.5	100.0 (1858)	**
	中学校	65.1	20.4	10.2	4.3	100.0 (1704)	
	合計	68.1	18.6	8.9	4.4	100.0 (3562)	
授業中におしゃべりすることがある	小学校	12.2	29.2	45.3	13.3	100.0 (1857)	**
	中学校	8.8	29.0	47.5	14.7	100.0 (1702)	
	合計	10.5	29.1	46.4	14.0	100.0 (3559)	
忘れ物することがある	小学校	11.1	35.6	40.7	12.6	100.0 (1847)	
	中学校	11.1	37.9	40.6	10.4	100.0 (1702)	
	合計	11.1	36.7	40.6	11.6	100.0 (3549)	
授業中に居眠りすることがある	小学校	85.5	7.5	3.4	3.6	100.0 (1843)	***
	中学校	43.8	25.3	21.7	9.2	100.0 (1698)	
	合計	65.5	16.1	12.2	6.3	100.0 (3541)	
先生とすれちがったらあいさつをする	小学校	5.2	8.8	31.7	54.3	100.0 (1855)	***
	中学校	6.2	14.9	39.4	39.5	100.0 (1701)	
	合計	5.7	11.7	35.4	47.2	100.0 (3556)	
卒業式では身だしなみを整える	小学校	5.3	2.9	13.9	78.0	100.0 (1810)	
	中学校	4.0	2.4	13.9	79.7	100.0 (1701)	
	合計	4.7	2.6	13.9	78.8	100.0 (3511)	

は、「あてはまる」（「とてもあてはまる」＋「まあまああてはまる」）と回答した者が82.6%であり、よく挨拶できているのではないかと考える。マナー行動について小中学生を比較すると、授業中の居眠りについて、意識面と同様に大きな開きがある。「授業中に居眠りをすることがある」に「あてはまる」（「とてもあてはまる」＋「まあまああてはまる」）と回答した者は、小学生7.0%であるのに対し、中学生では30.9%であった。

2-4. 友だちに対するマナー意識・行動

学校でのマナーについても、意識面では小学生と中学生の差が出やすいものの、実際の行動においては「授業中の居眠り」などを除いて大差なかった。では、友だち関係のなかで、小中学生はどのようなマナー意識を持ち、どのような行動をとっているのだろうか。表8は、小中学生の友だちに対するマナーについて問い、得られた回答を示したものである。

まずは表8の上半分（マナー意識）からみていきたい。小中学生の合計値をみていくと、「ぜったいにいけない」と回答した小中学生の割合の高い項目は「借りたものを返さない」（88.6%）、「仲間はずれにする」（85.7%）、「暴力をふるう」（83.0%）、「ひみつを他人に話す」（75.3%）、「話しかけても無視をする」（71.5%）である。これらの行為はいじめ問題とも関係する。その視点でみると、「ぜったいにいけない」の該当者の割合は確かに高いものの、「しかたないときもある」との回答も1割以上あり、子どもたちはどのような時・場面で「しかたない」と考えているのか、さらなる追究が求められるだろう。これを小学生と中学生のデータで比較すると、「待ち合わせの時間に遅刻する」の項目を除き、中学生よりも小学生の方が「ぜったいにいけない」と回答する割合が多くなっている。とりわけ「人の悪口をいう」については、小学生の80.1%に対し中学生では61.2%、「ウソをつく」については、小学生の64.1%に対し中学生43.3%というように、いずれも20%程度の開きがある。中学生は小学生に比べて、社会規範からの逸脱に対する許容範囲が広い。

表8の下半分（マナー行動）をみると、「あてはまる」（「とてもあてはまる」＋「まあまああてはまる」）と回答した割合は、「ひみつを他人に話すことがある」（21.3%）、「友だちの悪口を言うことがある」（32.6%）、「話しかけられても無視することがある」（16.8%）、「仲間はずれにすることがある」（9.7%）、「暴力をふるうことがある」（14.9%）などとなっている。「とてもあてはまる」という回答は5%前後であるものの、悪口、無視、仲間はずれ、暴力など、1割～3割程度の小中学生が「あてはまる」と回答しており、いじめ問題に引き寄せて考えると、決して少ない数字ではないように思われる。これを小学生と中学生のデータで比較すると「あてはまる」（「とてもあてはまる」＋「まあまああてはまる」）と回答した者の割合は、「友だちの悪口を言うことがある」では小学生27.0%、中学生38.7%と差が大きいものの、それを除くと、10%以上の差がある項目は見当たらなかった。

2-5. 食事の際のマナー意識・行動

続いて食事の際のマナー意識・行動についても確認したい。表9は、食事の際のマナー意識・行動について小中学生に尋ね、その回答を示したものである。

まず、表9の上半分（マナー意識）をみることにしたい。小中学生の合計値をみていくと、「いただきます」や「ごちそうさま」を言わないことを「ぜったいにいけない」と考える小中学生は、78.7%と多い。表9の各項目について、小学生と中学生のデータを比較すると、いずれの項目においても、中学生よりも小学生の方が「ぜったいにいけない」と回答した者の割合が高いことがわかる。この点は食事のマナーに限らず、学校でのマナーや、友だち関係でのマナーについても、同様の傾向が見られた。特に、「いただきます」〈ごちそうさま〉を言わない、「嫌いな食べ物を残す」、

表8 友だちに対するマナー意識・行動

		べつによい	たまにならよい	しかたないときもある	ぜったいにいけない	合計	
待ち合わせの時間に遅刻する	小学校	4.2	4.9	63.0	27.9	100.0 (1863)	
	中学校	3.7	6.7	60.5	29.1	100.0 (1718)	
	合計	4.0	5.8	61.8	28.5	100.0 (3581)	
借りたものを返さない	小学校	0.3	1.2	7.4	91.2	100.0 (1861)	***
	中学校	0.8	1.3	12.1	85.8	100.0 (1717)	
	合計	0.5	1.3	9.6	88.6	100.0 (3578)	
ひみつを他の人に話す	小学校	1.9	1.9	16.8	79.4	100.0 (1862)	***
	中学校	2.5	3.2	23.5	70.9	100.0 (1714)	
	合計	2.2	2.5	20.0	75.3	100.0 (3576)	
人の悪口を言う	小学校	2.1	2.8	15.0	80.1	100.0 (1855)	***
	中学校	4.1	4.8	29.8	61.2	100.0 (1714)	
	合計	3.1	3.8	22.1	71.0	100.0 (3569)	
ウソをつく	小学校	1.9	2.9	31.1	64.1	100.0 (1859)	***
	中学校	3.7	5.4	47.6	43.3	100.0 (1715)	
	合計	2.7	4.1	39.0	54.1	100.0 (3574)	
話かけても無視をする	小学校	1.5	2.4	20.7	75.4	100.0 (1856)	***
	中学校	2.5	2.6	27.5	67.4	100.0 (1713)	
	合計	2.0	2.5	24.0	71.5	100.0 (3569)	
仲間はずれにする	小学校	1.4	1.0	8.1	89.5	100.0 (1856)	***
	中学校	1.8	1.5	15.2	81.6	100.0 (1712)	
	合計	1.6	1.2	11.5	85.7	100.0 (3568)	
暴力をふるう	小学校	1.5	1.9	11.4	85.2	100.0 (1856)	***
	中学校	1.8	1.3	16.4	80.5	100.0 (1711)	
	合計	1.6	1.6	13.8	83.0	100.0 (3567)	
		まったくあてはまらない	あまりあてはまらない	まあまああてはまる	とてもあてはまる	合計	
待ち合わせの時間に遅刻することがある	小学校	36.8	34.2	24.3	4.7	100.0 (1855)	***
	中学校	29.6	39.0	27.0	4.5	100.0 (1702)	
	合計	33.3	36.5	25.6	4.6	100.0 (3557)	
借りたものは返すようにしている	小学校	7.7	1.6	8.7	82.0	100.0 (1855)	***
	中学校	4.3	2.2	15.0	78.6	100.0 (1704)	
	合計	6.1	1.9	11.7	80.4	100.0 (3559)	
ひみつを他の人に話すことがある	小学校	49.2	31.6	14.0	5.2	100.0 (1853)	***
	中学校	35.8	40.7	18.0	5.4	100.0 (1701)	
	合計	42.8	36.0	16.0	5.3	100.0 (3554)	
友だちの悪口を言うことがある	小学校	38.9	34.1	20.5	6.4	100.0 (1846)	***
	中学校	18.6	42.7	31.0	7.7	100.0 (1701)	
	合計	29.2	38.2	25.6	7.0	100.0 (3547)	
友だちにウソをつくことがある	小学校	38.4	35.1	21.0	5.6	100.0 (1847)	***
	中学校	21.4	44.5	27.3	6.8	100.0 (1699)	
	合計	30.2	39.6	24.0	6.2	100.0 (3546)	
話かけられても無視することがある	小学校	58.6	25.8	9.9	5.6	100.0 (1850)	***
	中学校	47.4	34.6	12.9	5.1	100.0 (1701)	
	合計	53.3	30.0	11.4	5.4	100.0 (3551)	
仲間はずれにすることがある	小学校	70.3	19.7	6.9	3.2	100.0 (1847)	***
	中学校	57.3	33.5	6.2	3.0	100.0 (1701)	
	合計	64.1	26.3	6.6	3.1	100.0 (3548)	
暴力をふるうことがある	小学校	63.8	19.8	11.0	5.4	100.0 (1852)	**
	中学校	63.2	23.4	9.6	3.8	100.0 (1699)	
	合計	63.5	21.5	10.3	4.6	100.0 (3551)	

「口に食べ物をいれたまま話す」の項目では差が大きく、いずれも「ぜったいにいけない」と答えた小学生と中学生の割合は10%以上の差がみられた。

他方、下半分(マナー行動)について見ると、「あてはまる」(「とてもあてはまる」+「まあまああてはまる」と回答した割合は、「いただきます」や「ごちそうさま」を言う(90.7%)で高く、「ひじをついて食べることがある」(28.8%)、「嫌いな食べ物を残すことがある」(37.7%)、「口に食べ物をいれたまま話すことがある」(27.0%)、「テレビを見ながら食べることがある」(75.7%)となっていた。食文化や食事環境の変化とともに、食事のマナーも変化するものであるが、食事のあいさつ(いただきます/ごちそうさま)は広範に行われ、また、テレビを見ながら食事をすることも、かなり一般化していることがわかる。

小学生と中学生のデータを比較するとどうだろうか。結論的にいうと、「あてはまる」(「とて

表9 食事の際のマナー意識・行動

		べつによい	たまにならよい	しかたないときもある	ぜったいにいけない	合計	
ひじをついて食べる	小学校	4.4	5.6	26.8	63.1	100.0 (1861)	***
	中学校	7.2	8.0	33.7	51.1	100.0 (1717)	
	合計	5.7	6.8	30.1	57.4	100.0 (3578)	
「いただきます」「ごちそうさま」を言わない	小学校	1.6	2.4	8.7	87.3	100.0 (1860)	***
	中学校	3.4	5.6	21.6	69.4	100.0 (1717)	
	合計	2.4	4.0	14.9	78.7	100.0 (3577)	
嫌いな食べ物を残す	小学校	4.5	5.4	35.4	54.7	100.0 (1858)	***
	中学校	9.2	8.7	46.0	36.1	100.0 (1719)	
	合計	6.8	7.0	40.5	45.7	100.0 (3577)	
口に食べ物をいれたまま話す	小学校	1.8	4.1	23.8	70.2	100.0 (1850)	***
	中学校	4.7	6.8	34.7	53.7	100.0 (1713)	
	合計	3.2	5.4	29.1	62.3	100.0 (3563)	
テレビを見ながら食べる	小学校	33.6	14.1	28.5	23.9	100.0 (1853)	***
	中学校	41.1	14.3	30.3	14.3	100.0 (1711)	
	合計	37.2	14.2	29.3	19.3	100.0 (3564)	
		まったくあてはまらない	あまりあてはまらない	まあまああてはまる	とてもあてはまる	合計	
ひじをついて食べることがある	小学校	45.3	27.5	19.1	8.1	100.0 (1857)	***
	中学校	37.5	32.1	22.5	7.8	100.0 (1703)	
	合計	41.6	29.7	20.8	8.0	100.0 (3560)	
「いただきます」「ごちそうさま」を言う	小学校	5.6	3.1	6.9	84.4	100.0 (1853)	***
	中学校	4.5	5.5	17.1	72.9	100.0 (1704)	
	合計	5.0	4.3	11.8	78.9	100.0 (3557)	
嫌いな食べ物を残すことがある	小学校	40.1	23.9	23.6	12.4	100.0 (1857)	*
	中学校	35.6	25.0	26.1	13.3	100.0 (1703)	
	合計	37.9	24.4	24.8	12.9	100.0 (3560)	
口に食べ物をいれたまま話すことがある	小学校	43.0	32.1	17.9	7.0	100.0 (1841)	***
	中学校	33.7	37.0	22.5	6.7	100.0 (1693)	
	合計	38.5	34.5	20.1	6.9	100.0 (3534)	
テレビを見ながら食べることがある	小学校	14.3	12.7	26.1	46.9	100.0 (1851)	***
	中学校	9.3	12.1	26.9	51.7	100.0 (1698)	
	合計	11.9	12.4	26.5	49.2	100.0 (3549)	

もあてはまる」+「まあまああてはまる」)をあわせた数値を比較すると、小学生と中学生の割合が10%以上開いているものはない。その意味で、食事のマナーにおいては、発達段階による差が比較的に見られにくい領域ということができそうである。

以上、日常生活におけるマナー、学校でのマナー、友だちに対するマナー、食事の際のマナーに着目し、小中学生のマナー意識・行動について検討してきた。その結果、概して中学生よりも小学生の方がマナーを守るべきという意識が強いこと、しかし、行動面については小学生と中学生であり大きな差がみられないことがわかる。では、こうしたマナー意識・行動はどのような教育、あるいは環境を通して身についたのだろうか。最後に、小中学生に対するマナー教育について見ていきたい。

3. 小中学生に対するマナー教育

マナーを学ぶ機会として、大きくは「家庭」「学校」「地域」の三つを考えることができる。表10は、それぞれの場面でどの程度、マナーを教えてもらったかを尋ねたものである。まず、小中学生の合計の値をみると、「よく教えてもらう」とする回答の割合「家庭」49.0%、「学校」52.2%、「地域」7.9%となっており、学校の割合が最も大きくなっていることがわかる。

次に小学生と中学生とにデータを分けてみると、「学校」において「よく教えてもらう」と回答した割合は、小学生60.7%、中学生42.9%となっており、特に小学生がそのように感じていることがわかる。小中学生調査とは別に行った保護者対象の調査では、マナーを学ぶべき場所として約9割の保護者が「家庭」を挙げていた²⁾。マナー教育の担い手として家庭を重視する保護者と、家庭と同様に、あるいは家庭以上に「学校で」マナーを学んでいると回答している小中学生との違いが明確であり、この点は興味深い。

では、学校教育ではどのような場面でマナーを教えてもらっているのだろうか。次の表11は、学校のどのような場面でマナーを教えてもらったかを尋ねた結果である。小中学生の合計の値をみると、「あてはまる」の回答者が最も多いのは、「道徳の授業で」の74.2%、続いて「運動会や遠足などの行事で」(46.5%)、「給食の時間に」(38.7%)、「そうじの時間に」(32.1%)となっている。道徳の授業を除けば、特別活動の時間を利用してマナーの伝達されていることがわかる。

なお、これらの各項目について、小学生と中学生とのデータを比較してみると、「道徳の授業で」については、小学生74.5%、中学生73.9%とほとんど差がみられないが、「運動会や遠足などの行事で」(小学生52.9%、中学生39.7%)、「給食の時間に」(小学生47.5%、中学生29.1%)、「そうじの時間に」(小学生44.7%、中学生18.7%)と大きな差がみられる。小学生が「道徳の授業」だけでなく「特

表10 マナーを教えてもらう機会

		まったく教えてもらわない	あまり教えてもらわない	ときどき教えてもらう	よく教えてもらう	合計
家庭	小学校	2.9	7.0	37.1	53.0	100.0 (1839) ***
	中学校	3.1	9.6	42.7	44.6	100.0 (1681)
	合計	3.0	8.2	39.8	49.0	100.0 (3520)
学校	小学校	1.5	6.7	31.1	60.7	100.0 (1825) ***
	中学校	3.5	10.3	43.3	42.9	100.0 (1680)
	合計	2.5	8.4	36.9	52.2	100.0 (3505)
地域	小学校	36.0	33.5	20.0	10.5	100.0 (1806) ***
	中学校	42.2	36.4	16.2	5.2	100.0 (1665)
	合計	39.0	34.9	18.2	7.9	100.0 (3471)

別活動の時間」にもマナーを学んでいると考えているのに対して、中学生は道徳の時間という限定した場面でマナーを学んでいると考えていることがわかる。

表12は、マナー（きまり）の伝達場所を家庭に限定してみた場合に、そのなかで一番よく教えてくれた人は誰か、「母」「父」「祖母」「祖父」「その他」のいずれかから選択してもらった結果である。この結果からは、母親からマナーを最も教えてもらったと考える小中学生の多いことがわかる。小中学生の合計値をみると、「母」59.4%、「父」16.4%、「祖母」7.0%、「祖父」2.5%となっており、約6割の小中学生が母親を選択している。なお、この割合は小学生と中学生とで大きな差はなく、いずれにおいても母親約6割、父親1.5割となっている。

他方、家庭・学校以外でマナーを身につけた場面についても確認したい。表13は、家庭や学校以外のどこでマナーを身につけたかを尋ねた結果である。この結果からまず、小中学生の合計の値をみると、「あてはまる」の回答者が最も多いのは、「習い事や塾で」の46.7%で、次に「子ども会などの団体活動で」（32.5%）が続いている。

次に、これらの各項目を小学生と中学生のデータで比較してみると、「習い事や塾で」を選択した者は小学生53.0%、中学生39.8%、「子ども会などの団体活動で」を選択した者は小学生37.1%、

表11 学校でマナーを教えてもらった場面

		あてはまる	あてはまらない	合計	
道徳の授業で	小学校	74.5	25.5	100.0 (1867)	
	中学校	73.9	26.1	100.0 (1726)	
	合計	74.2	25.8	100.0 (3593)	
道徳以外の授業で	小学校	38.5	61.5	100.0 (1867)	***
	中学校	22.9	77.1	100.0 (1726)	
	合計	31.0	69.0	100.0 (3593)	
運動会や遠足などの行事で	小学校	52.9	47.1	100.0 (1867)	***
	中学校	39.7	60.3	100.0 (1726)	
	合計	46.5	53.5	100.0 (3593)	
給食の時間に	小学校	47.5	52.5	100.0 (1867)	***
	中学校	29.1	70.9	100.0 (1726)	
	合計	38.7	61.3	100.0 (3593)	
そうじの時間に	小学校	44.6	55.4	100.0 (1867)	***
	中学校	18.7	81.3	100.0 (1726)	
	合計	32.1	67.9	100.0 (3593)	
その他	小学校	12.4	87.6	100.0 (1867)	***
	中学校	7.1	92.9	100.0 (1726)	
	合計	9.8	90.2	100.0 (3593)	
教えてもらったことがない	小学校	1.7	98.3	100.0 (1867)	**
	中学校	3.2	96.8	100.0 (1726)	
	合計	2.4	97.6	100.0 (3593)	

表12 最もマナーを教えてくれた人

	母	父	祖母	祖父	その他	複数回答	合計	
小学校	58.5	15.9	8.5	2.9	8.2	5.9	100.0 (1833)	***
中学校	60.4	16.8	5.5	2.0	10.8	4.5	100.0 (1688)	
合計	59.4	16.4	7.0	2.5	9.5	5.2	100.0 (3521)	

中学生27.5%というようにかなりの差があり、概して中学生よりも小学生の方が、多様な機会にマナーを身につけているということができそうだ。このことは、「ボランティア活動で」、「地域のおじさんやおばさんから」においても同じである。家庭や学校以外の場面においても、小学生はさまざまな機会にマナーを学んでいると考える傾向がある。これに対して中学生では、より学校生活に縛られる傾向があるからか、「道徳の授業」以外でのマナー学習は手薄であると考えていることがわかる。

IV. おわりに

これまでみてきたように、小学生と中学生のデータでは、マナー意識やマナー行動の面でかなりの違いがある。このような差が生じる背景には、発達段階が大きく影響しているのではないかと考える。小学校5年生とはいえ、親や教師から「～すべきである」、あるいは、「～してはいけない」という規範を伝達されると、小学生は素直にそれを受け入れて、「ぜったいにいけないこと」とする傾向がある。これに対して、少し大人に近づいた中学生は、ルールやマナーを絶対的なものとしてではなく、文脈に沿って理解する。したがって、場合によってはそのマナーを守らなくてもよい、あるいは守るべきでないことを知っている。そのため、小学生よりも、選択肢の「仕方ない場合もある」を選ぶ傾向にあるのだろう。このように考えると、中学生よりも小学生の方がマナーを守るべきという意識が強いことがいいことで、中学生は小学生を見習うべきだと安易にいけないことがわかる。小学生のデータと中学生のデータは質の異なるものとして、分けて検討する必要があるだろう。本稿では、小中学生のデータを合体させ、その後小学生と中学生のデータを比較しながら論じるという方法を採用してきた。しかし、より詳細な分析を進めていくためには、小学生、中学生のデータを分けて分析していく必要がある。

次に本稿の分析から明らかになったことを整理すると、およそ以下の4点に整理できるのではな

表13 家庭・学校以外でマナーを身につけた場面

		あてはまる	あてはまらない	合計	
子ども会などの団体活動で	小学校	37.1	62.9	100.0 (1867)	***
	中学校	27.5	72.5	100.0 (1726)	
	合計	32.5	67.5	100.0 (3593)	
習い事や塾で	小学校	53.0	47.0	100.0 (1867)	***
	中学校	39.8	60.2	100.0 (1726)	
	合計	46.7	53.3	100.0 (3593)	
ボランティア活動で	小学校	23.3	76.7	100.0 (1867)	***
	中学校	14.7	85.3	100.0 (1726)	
	合計	19.2	80.8	100.0 (3593)	
地域のおじさんやおばさんから	小学校	24.7	75.3	100.0 (1867)	***
	中学校	15.8	84.2	100.0 (1726)	
	合計	20.4	79.6	100.0 (3593)	
その他	小学校	10.1	89.9	100.0 (1867)	***
	中学校	11.2	88.8	100.0 (1726)	
	合計	10.7	89.3	100.0 (3593)	
身につけたことがない	小学校	10.0	90.0	100.0 (1867)	***
	中学校	16.9	83.1	100.0 (1726)	
	合計	13.3	86.7	100.0 (3593)	

いか。

- 1) 小中学生の多くは、マナーを守るべきだという価値観を身につけ、マナーを守るべき理由を理解し、実際にマナーを守っている。
- 2) 日常生活におけるマナー、学校でのマナー、友だちに対するマナー、食事の際のマナーについて、概して中学生よりも小学生の方がマナーを守るべきという意識が強い。
- 3) しかし、実際のマナー行動については小学生と中学生との間に大きな差はなく、概してマナーを守っていると回答する小中学生は多い。ただし、中学生のデータを見ると、「授業中のおしゃべり」や「先生へのあいさつ」はともかく、「授業中に居眠りをすることがある」に「あてはまる」と回答した割合が3割を超えていることは意外に多いという印象を持った。
- 4) 小中学生がマナーを教えてもらう場所は家庭に限られたものではない。家庭でも教えてもらい、学校でも教えてもらっていると考えている小中学生が多かった。

これまでの記述からは、小中学生のマナー意識・行動が概してよいと言えそうだ。ただし、悪口、無視、仲間はずれ、暴力など、1割～3割程度の小中学生が「あてはまる」と回答しており、この点にはさまざまな意見があるはずだ。また、小中学生のデータは、保護者の認識とだいぶ異なっているようにもみえる。先に指摘した通り、保護者対象の調査結果からは、マナーを学ぶべき場所として約9割の保護者が「家庭」を挙げていることが明らかになった。また、最近の子どものマナーは悪くなっているか尋ねた項目では、6割以上が否定的な見方をしていることもわかった。子どものマナーが低下していると考え、その理由を家庭に求める保護者と、自分たちのマナーはよいと考え、マナーは家庭だけでなく学校でも学んでいると考える子どもがいる。また、保護者では「勉強ができる子どもに育てたい」に「とてもあてはまる」と回答した割合は2割強に過ぎなかったのに対し、「勉強ができる人になりたい」に「とてもあてはまる」と回答した小中学生は68%に達しており、保護者と小中学生では大きく食い違っている。改めて、保護者データと小中学生データを付き合わせて考える必要がありそうだ。

本田由紀(2008)は、母親を対象としたインタビューの結果から、学歴による格差や質の違いはあるものの、総じて「母親たちはそれぞれのやり方で精いっぱい〈家庭教育〉をやっている」(118頁)と指摘している。本調査の結果は、そうした母親たちの子育てを後押しするものになりはしないだろうか。少なくとも小中学生は家庭以外でもマナーを学んでいると考えている。また、概してマナーを守るべきという意識も高く、マナーを守っているとも答えている。そうした子どもたちの「たくましさ」を信じながら、マナーを教えることも大切なのではなかろうか。

以上、本稿では、小中学生を対象とした質問紙調査の結果を報告してきた。しかしながら、性別や地域、家族構成等を考慮した上でのサンプルの比較分析は紹介できていない。保護者調査との比較も含めて、データの詳細な分析については別稿に譲りたい。

(注)

¹⁾ 現代のマナーの定義については、意識調査や言葉の用いられ方の変遷などを含めて検討する必要があるため、実態調査を目的とした本稿ではひとまず、他者への配慮を必要とする行動を広く、マナー意識、マナー行動と表現して説明することとする。

²⁾ 詳細については、加野ほか(2014)を参照されたい。

【謝辞】

本研究のデータ収集には香川県をはじめ、東京都、長野県、兵庫県、鹿児島県にある多くの学校の協力をいただきました。本研究の趣旨に賛同いただき、質問紙の配付や回収に御協力いただいた小学校・中学校の校長先生、教頭先生、担任の先生には厚く御礼申し上げます。また、貴重な授業時間の中で質問紙の回答に御協力いただいた、たくさんの児童、生徒の皆さんにも厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

【参考文献】

青木保『儀礼の象徴性』岩波現代文庫、2006年

加野芳正・村上光朗・西本佳代・古賀正義・越智康詞・松田恵示「育てたい子ども像と躰・マナーの位相—保護者への質問紙調査の結果から—」『香川大学教育学部研究報告・第I部』第141号、2014年

神原文子・高田洋子編『教育期の子育てと親子関係』ミネルヴァ書房、2000年

武光誠『「型」と日本人—一品性ある国の作法と美意識』PHP新書、2008年

竹内里欧『「欧化」と「国粹」—礼儀作法書のレトリック』『ソシオロジ』143号、2002年

中野孝次『現代人の作法』岩波新書、1997年

広田照幸『日本人のしつけは衰退したか』講談社現代新書、1999年

本田由紀『「家庭教育」の隘路』勁草書房、2008年

見田宗介他編『社会学事典』弘文堂、1988年

矢野智司『贈与と交換の教育学—漱石、賢治と純粋贈与のレッスン』東京大学出版会、2008年

我妻洋・原ひろ子『しつけ』弘文堂、1974年

Bourdieu, P., 1979, 1982, *La distinction: critique sociale du jugement*, Paris: Éditions de Minuit. = 石井洋二郎訳『ディスタクシオン—社会的判断力批判』（I、II）藤原書店、1990年

Elias, N., 1969a *Über den Prozess der Zivilisation, Erster Band*, Bern; München: Francke Verlag. = 赤井慧爾ほか訳『文明化の過程—ヨーロッパ上流階層の風俗の変遷』（上）法政大学出版局、1977年

本研究は平成23-25年度科学研究費（基盤研究B）「マナーと人間形成に関する総合的研究」（代表 加野芳正 課題番号23330226）による研究成果の一部である。